
キモス和夫烈伝

星アヤメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キモス和夫烈伝

【NZコード】

N8713A

【作者名】

星アヤメ

【あらすじ】

この主人公キモスこと、新井和夫はニートだつたが今日からある特殊な仕事につくという。その道程はいかに！？

前章（前書き）

初めて書いたのでつまらないかもしけませんがそのへんは注意してください。

ジリリリリリ…ドン…。
けねかふうい…。」

ドドドドバタン…!

このバカ藏が…今日から仕事だろおがあああ

俺はずつと二ートだったが、今日からある特殊な仕事に就くことに
なった新井和夫である。
「あんたね～早く起きて飯食つてクソして寝なーボケ！つて間違つたじゃねーかよ

バシバシ！ーと竹刀を振り下ろす音が家中に響いている。

弁してけろおー！」

「わけわからぬ言葉使つてないで早く起きなさいー！」

ホントにあのババアは手加減しないんだから全く。

はあ～今日から仕事だけど、行きたくないんだよな～。

朝ご飯を食べながら全くやる気のない和夫に対し母が竹刀をブン
ブン振り回していた。

さすがに恐い和夫は母から逃げる様に行つてきまーすと家をでた。
しかもダッシュだ。光よりも早そくなぐらい。

まぶしい朝日が目にしみそうな今日この頃、和夫は二ートを卒業し
仕事に向かっていた。いや道に迷つていた。

「はあ～つーか俺場所知らねーー！。どうじょう誰か助けてえーー！
！つて叫んでも意味ないし、やっぱり帰ろう。うん。帰ろつ。」

と街中で余裕で一人事を言いまくつてい

「あと5分だ

「早く起きろ

「早く起きろ

るキモス。いやいや和夫は既に帰る気満々である。

「仕方ね～よな～。母さんに紹介しても

らつた仕事だけど、あんたにピッタリの仕事よ！とか言いながら場所とか言つてないじゃんか。」

「そりだ逆にキレイもいいかもな、場所言つてねーだろおおがバカヤロー！…つて、朝の竹刀の恨みは忘れないぜ母よ」

くつくつくつと鼻で笑いながら歩くバカ、いやキモス、いやいや和夫は自分がダッシュで家を出た事を完全に忘れていた。

街中を和夫がスキップかと思つくりこうかれながら歩いていると突然目の前に野球のユニフォームを着たオヤジが現れた。「今日は帰つてゲームしようつて うわああ！！！！つーか前から変なやつ歩いてきてるし。何で野球のユニフォームなんか着てんだよ。しかもサイズあつてねーだろ。裾とかマジ短しい。」

（気分悪くなるよマジでといいながらすれ違つた瞬間、和夫は氷ついた。いや石化した。）

「と、父さん…。いや父さんは一ヶ月前死んだはずなんだ、絶対父さんなわけがない。でもあの野球のユニフォーム確実に俺の小学校の時のことだ」

声をかけようと迷いながら立ち止まつているキモス。いやいや和夫は自分の目がおかしいんだ！といいながら声をかけるのを止めた。

続く

前章（後書き）

もしよかつたら評価をお願いします。読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8713a/>

キモス和夫烈伝

2010年10月11日11時30分発行